

調査概要

1. 調査期間 平成30年5月18日(金)～6月8日(金)
2. 調査対象 札幌商工会議所定期景気調査 登録企業635社
3. 回答状況 312社（回答率49.1%）
4. 調査項目 ①5月の景況感（売上・採算等）と先行き見通しについて
②付帯調査…設備投資の動向について
～平成29年度の実績と平成30年度の見通し

5. 回答企業属性

業種					資本金					従業員					
サービス その他	建設	卸売	製造	小売	1千万円 以下	1千万円 超～5千 万円以下	5千万円 超～1億 円以下	1億円超 ～3億円 以下	3億円超	5人 以下	6～ 20 人	21 ～ 50 人	51 ～ 100 人	101 ～ 300 人	301 人 以上
37.9%	23.8%	15.8%	12.9%	9.6%	31.2%	45.0%	10.9%	2.9%	10.0%	10.6%	27.7%	28.3%	14.1%	10.9%	8.4%

① 5月の景況感と先行き見通しについて

※ ●5月D I ◆先行きD I

※D I値について…ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。

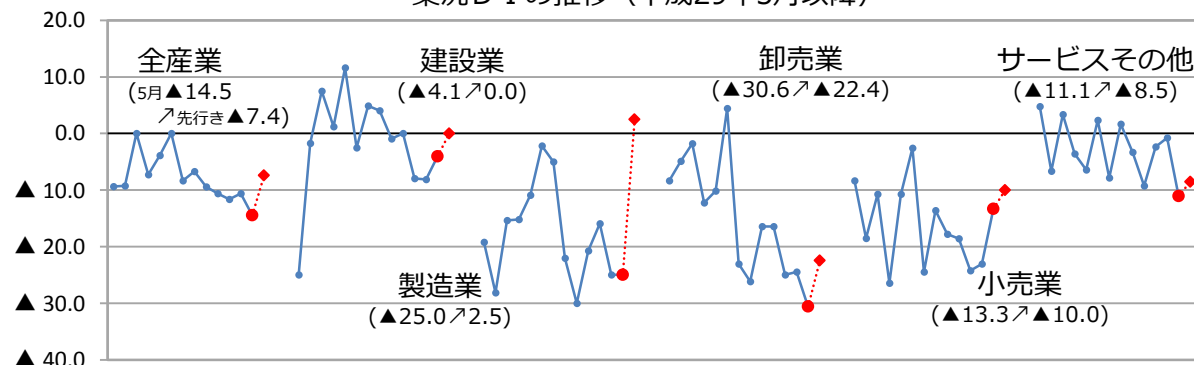
【例】業況D I = $\frac{(\text{好転} - \text{悪化})}{(\text{好転} + \text{不変} + \text{悪化})} \times 100$

※先行き見通しD I = 当月(5月)と比べた、向こう3ヶ月(6月～8月)の先行き見通し

5月の業況D I と先行き見通し

業況D Iは▲14.5と前月から悪化に転じた。先行きD Iは▲7.4と改善を見込む。

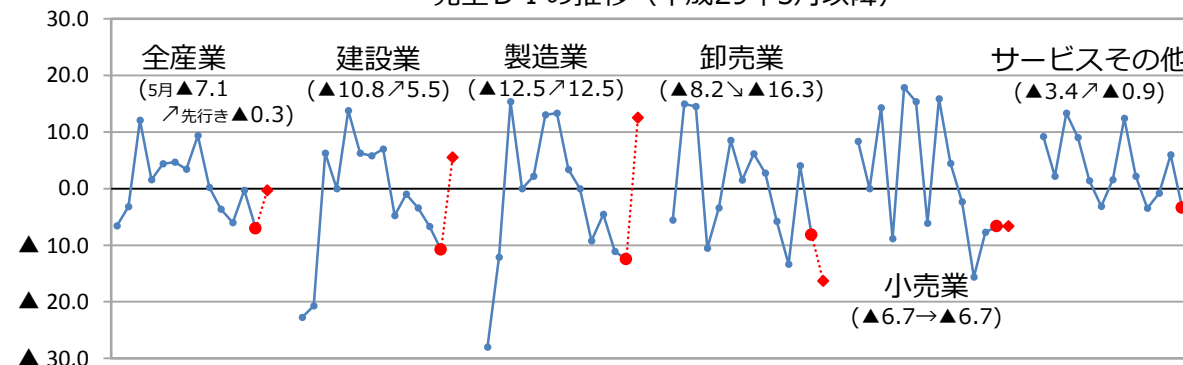
業況D Iの推移（平成29年5月以降）



5月の売上D I と先行き見通し

売上D Iは▲7.1と前月から減少に転じた。先行きD Iは▲0.3と増加を見込む。

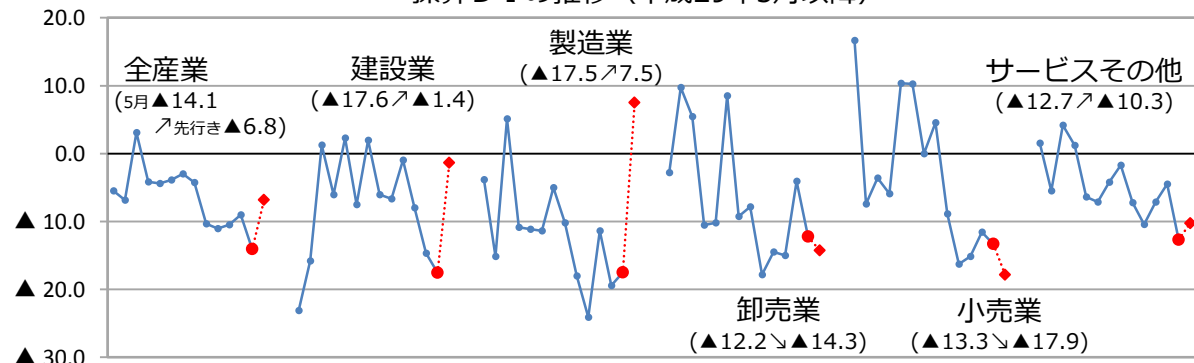
売上D Iの推移（平成29年5月以降）



5月の採算（経常利益）D I と先行き見通し

採算D Iは▲14.1と3カ月ぶりに悪化。先行きD Iは▲6.8と改善を見込む。

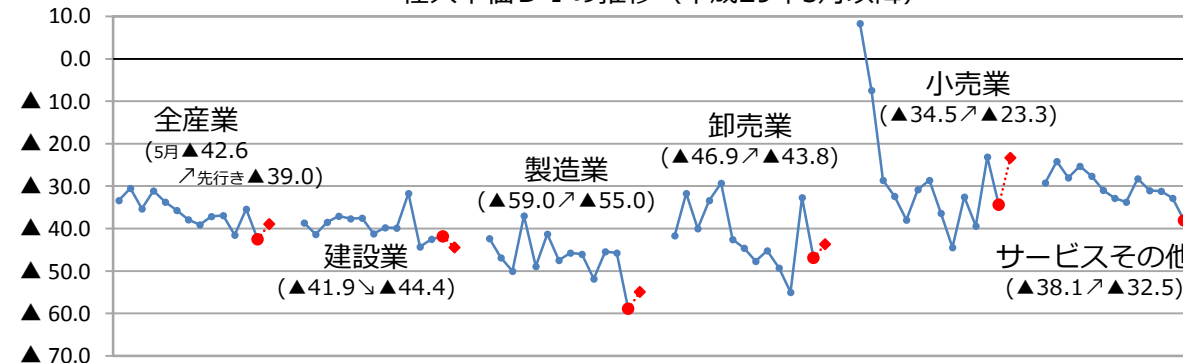
採算D Iの推移（平成29年5月以降）



5月の仕入単価D I と先行き見通し

仕入単価D Iは▲42.6と前月から単価の上昇を訴える企業の割合が増加した。先行きD Iは▲39.0と単価の下落を見込む。

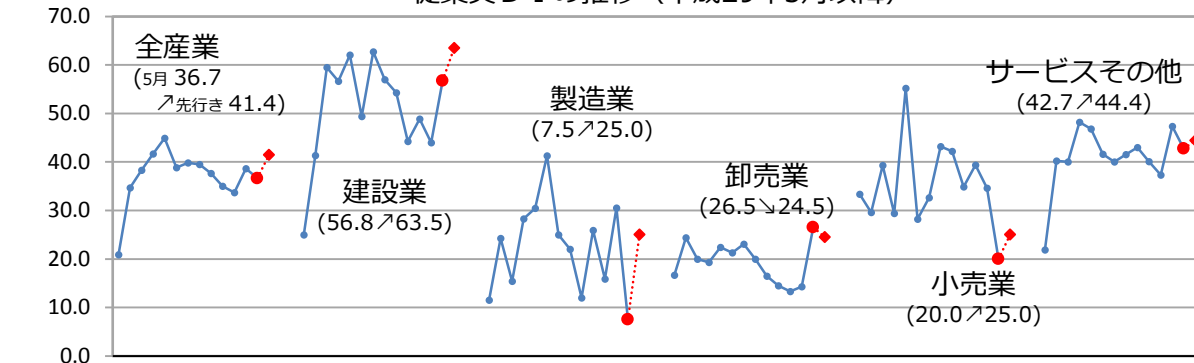
仕入単価D Iの推移（平成29年5月以降）



5月の従業員D I と先行き見通し

従業員D Iは36.7と前月から減少し、人手不足感は弱まった。先行きD Iは41.4と人手不足感の高まりを見込む。

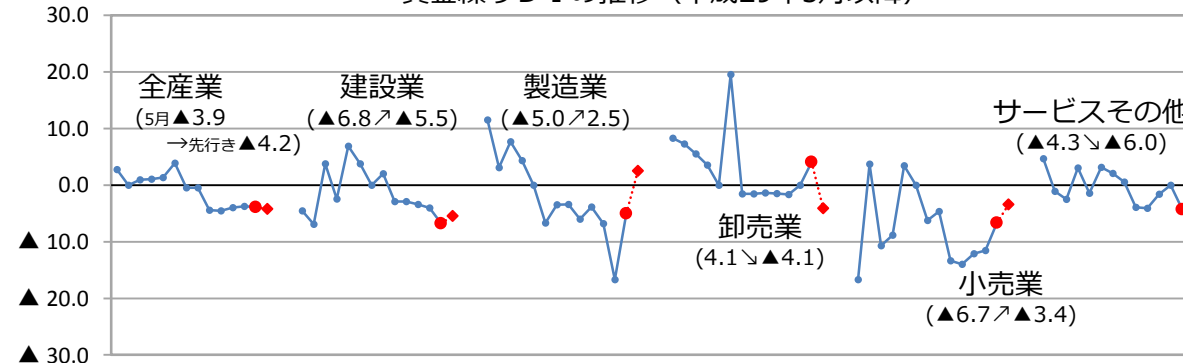
従業員D Iの推移（平成29年5月以降）



5月の資金繰りD I と先行き見通し

資金繰りD Iは▲3.9と4カ月連続で足踏み。先行きD Iも▲4.2とほぼ横這いを見込む。

資金繰りD Iの推移（平成29年5月以降）



② 設備投資の動向について

平成29年度の設備投資実績と平成30年度の設備投資見通しについて

- ▶ 平成29年度の設備投資を「実施した」と回答した企業は61.6%と、昨年調査時と比較して1.3ポイントの増加となった。一方で、「実施しなかった」と回答した企業は38.4%となった。

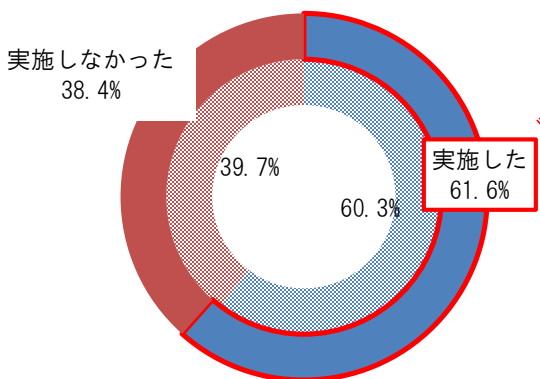
平成28年度と比較した平成29年度の設備投資規模は、「同水準」と回答した企業が56.9%と最も多く、次いで「拡大」と回答した企業が28.2%となった。「拡大」と回答した企業は昨年調査時より3.3ポイント減少したが、「縮小」と回答した企業は14.9%と昨年より5.0ポイント増加した。

- ▶ 平成30年度の設備投資を「実施予定」と回答した企業は55.8%と、昨年調査時と比較して2.2ポイント増加し、「現時点では未定」と回答した企業は37.1%と9.8ポイントの増加となった。一方で、「見送る」と回答した企業は7.1%と、昨年より12.0ポイント減少した。

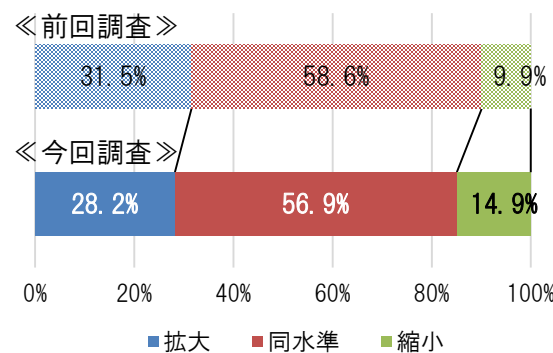
平成29年度と比較した平成30年度の設備投資規模は、「拡大」と回答した企業が28.3%と、昨年調査時より4.8ポイント増加した。一方で、「同水準」と回答した企業は51.4%と、昨年より3.7ポイント減少、「縮小」と回答した企業は20.2%でほぼ横這いに推移した。

【平成29年度の設備投資実績について】

※円グラフ外側が今回調査、内側は前年同月調査

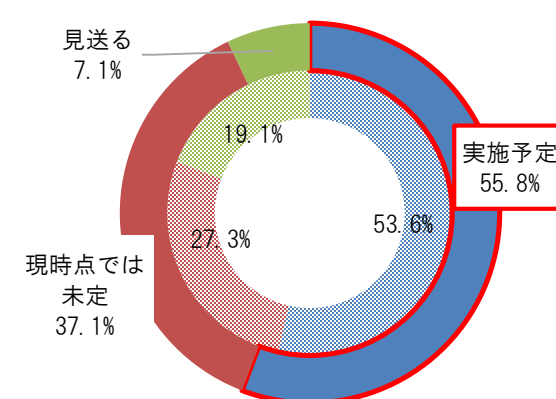


【平成28年度と比較した平成29年度の設備投資規模】

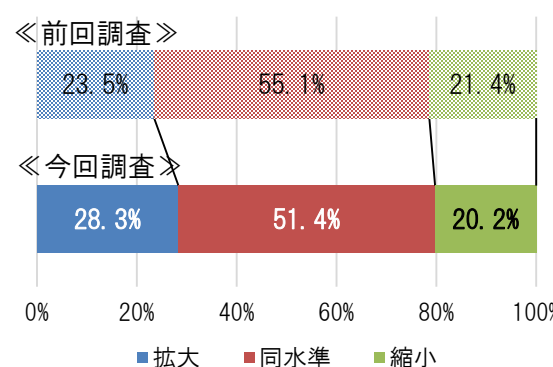


【平成30年度の設備投資見通しについて】

※円グラフ外側が今回調査、内側は前年同月調査



【平成29年度と比較した平成30年度の設備投資規模】



平成30年度の設備投資（見通し）の内容等について

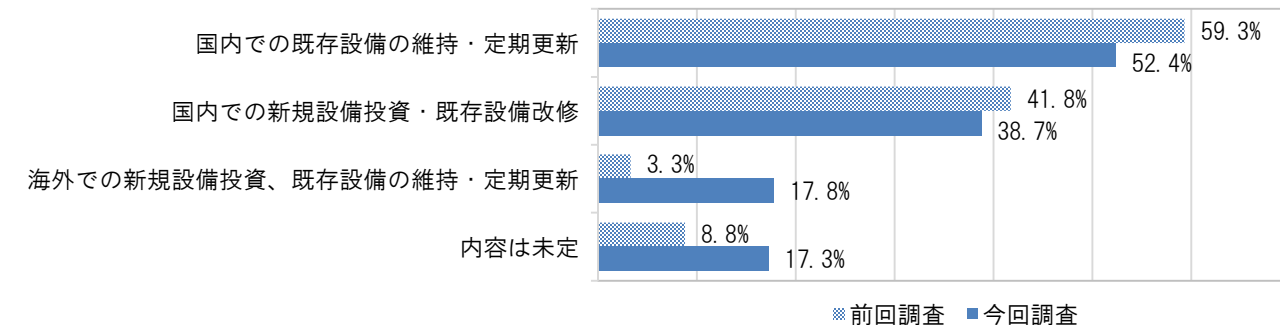
- ▶ 平成30年度の設備投資の内容については、「国内での既存設備の維持・定期更新」と回答した企業が52.4%と最も多く、次いで「国内での新規設備投資・既存設備改修」が38.7%を占めた。一方で、「海外での設備投資、既存設備投資の維持・定期更新」と回答した企業は17.8%と、国内の設備投資より劣るものの、昨年調査時と比較して14.5ポイント増加した。

- ▶ 平成30年度の設備投資の目的として、「省力化・合理化」と回答した企業が48.6%と最も多く、次いで「能力増強」が41.7%、「製品・サービスの品質向上」が34.7%、「新分野への進出」が11.1%となった。

- ▶ 平成30年度の設備投資を行う理由として、「現在の需要増に対応するため」との回答が39.9%と最も多く、次いで「従業員の時間外労働や長時間労働の抑制のため」が33.0%、「人手不足に対応するため」が23.9%となった。

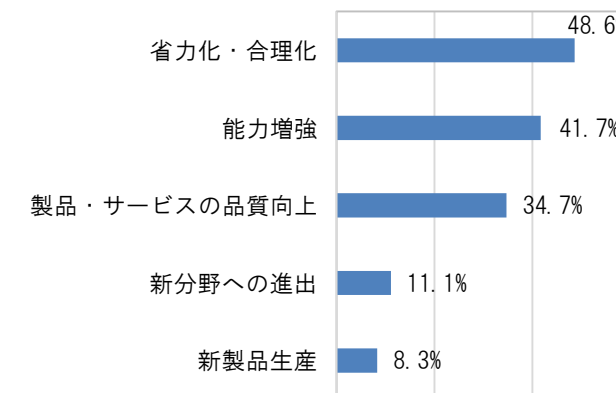
【平成30年度の設備投資の内容】

(※複数回答)



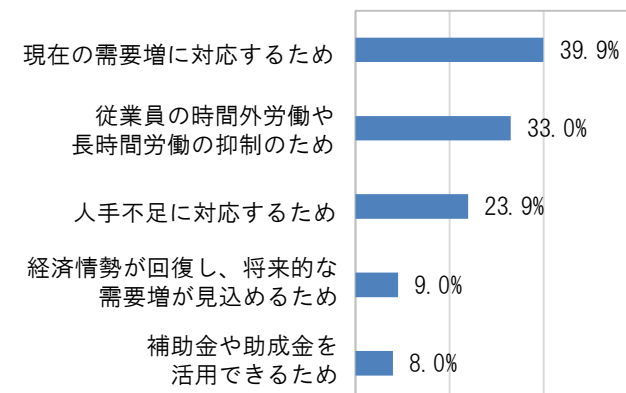
【平成30年度の設備投資の目的】

(※複数回答・上位5項目)



【平成30年度の設備投資を行う理由】

(※複数回答・上位5項目)



会員の声

- ▶ 1年後の受注高は増加が見込まれるものの、足元の受注高は足踏み又は減少傾向にある。案件数の減少により、同業他社とのコスト競争が鍵になると思われる。 …【設備工事業】
- ▶ 技術職の作業効率改善のため、モバイル情報端末をほぼ全員に支給し、社外での作業環境を改善している。また、社内における書類の煩雑さを軽減してほしいといった要望が多数あり、改善策を検討している。 …【設備工事業】
- ▶ 需要増に対応するために新規設備投資を行いたいですが、資金返済ができるか心配である。 …【日用品製造業】
- ▶ パート・派遣社員不足、原材料の値上げ、電力値上げが続く中、さらに重油等のエネルギーコストの上昇、物流費のアップで原価が大幅に上がっている。一方で、消費は伸びず商品に全く転嫁できない状況である。 …【食品製造業】

- ▶ 新規の商品開発による生産資金の需要はあるが、調達が困難である。 …【卸売業】
- ▶ 個人消費は引き続き節約・低価格志向が継続している。そのため、仕入れ価格・物流コストの上昇分を価格に転嫁しづらい状況が続いている。 …【小売業】
- ▶ 燃料費仕入価格の高騰が利益を圧迫している。 …【運送業】
- ▶ 今、一番頭を悩ませているのは、働き方改革に伴う時間外労働の規制である。時間外労働は減らさなくてはならないが、かといって社員をどんどん増やしていくと売上が下がった際に対応できなくなるのではないかと、との懸念がある。また、人材が集まらないというのも悩みの一つである。 …【土木建築サービス業】
- ▶ リフォームは国・道等の施策もあり、拡大基調にある。注文住宅も一次取得者を中心に、消費税駆け込み需要が今後予想される。都心マンション分譲（高額）は底堅く好調推移。 …【不動産業】